



西覚寺だより

第35号

春季彼岸会のご案内

● 日にち 三月 二十二日(日)

● 時間 午後一時半 ～ 午後三時半頃
● 内容 お勤め(宗祖讃仰作法 音楽法要)
● ご法話

※春季彼岸会は、午前の法座はありません。
ご注意ください

● 布教使 橋本 一風 師(三重県・女性布教使)

橋本 一風 師(三重県・女性布教使) 昨年に引き続き、今年の春季彼岸会のご法話も橋本一風先生にお願い致しました。女性の布教使の先生は大勢いらっしゃるわけではないので、とてもありがたいです。いつもの男性の布教使の方、ベテランの布教使の方々は、違い、口調や話しの雰囲気は柔らかく、聞きやすく感じます。お聴聞ください。

● お勤め

今回の法要のお勤めは、昨年の春季彼岸会と同じ、音楽法要です。内容は基本的に正信偈です。正信偈にメロディーをつけて、全体通しても西洋音楽の要素を用いた、とても荘厳な雰囲気のお勤めです。CDを併用します。

● 持ち物

マスク推奨(換気をしないため)
お念珠・門徒式章(お持ちの方)
御仏前(受付にお渡し下さい)

☆「ご報告とお願い」☆

昨年の夏は大変暑い夏でした。どんなに水をまいても、すぐに蒸発してしまふ。本堂の屋根瓦は、太陽の熱で焼かれて、お肉でも焼けそうなくらいでした。

そんな気候で、住宅に囲まれ風通しも良いわけではない西覚寺の本堂は、いつもいつもとても暑い、扇風機では気休めにもならない。そんな中、皆様にはお参り頂いており、大変心苦しく“は”思っていました。

そこで、この冬！一念発起！

大型のエアコンを導入する工事に臨みました！

それはそれが大がかりなことになりました。そもそもの電気工事から必要になりましたので。もちろん費用もかなりかかりました。

☆おかげさまで、「設置工事」は完了しました。

※重要① 中電さんのインフラ工事が終わっていないので、まだ使えません。

この夏にはもちろん「稼働」しますので、今までよりは快適な空間をご用意できるかと思えます。

※重要② その「ご報告に併せて、「改めて」のお願いです。

以前より、西覚寺の本堂にて「ご法事(お年忌や満中陰)」をお勤められる方には、御布施とは別で、**本堂支度料(一万円)**をお願いしています。月参りや七日七日のお参りの際は不要とします。 (例 御年忌御布施3万円 + 本堂支度料1万円)

この場を借りて、皆様に「改めて」周知させていただくとともに、夏冬のエアコン稼働時は事業用電気料金がかかります。また今後の維持管理もありますので、**本堂を使用される際は、どうぞ支度料のことも考慮頂きますよう、お願い申し上げます。** ※エアコン使う使わないは、支度料の有無には関係ありませんので、併せてご承知おきくださいませ。

子ども会のご案内

お寺にこどもの声もあふれますように。そんな西覚寺でありたいと思っています。

いまは小学一・二年生の子たちが多く遊びに来てくれています。お子さま、お孫さま、どうぞ声をかけてもらって、お寺でたのしく遊んだり、お経をとなえたりしませんか？毎週、住職からの大切なお話もあります。ご参加の方・興味のある方は、お寺までご連絡ください。

花まつりと進級のお祝い

- ・日にち 4月1日
- ・時間 午後2時～午後4時頃
- ・持ち物 お念珠 お経の本
こども式章
スタンプカード

内容

お釈迦様のご誕生祝
お花紙でお花をつくろう
進級祝いをプレゼント
お菓子と甘茶でおやつ
ビンゴゲームもします

花まつり

※スタンプカードは、お渡し済みの方のみ。お持ちでない方には、ご参加の際にお渡しします。
新しく参加されてみたい方は、お念珠のみで大丈夫です。
お気軽にご参加ください。



定例法座のご案内

気軽に聞ける、仏さまのお話の会

開催日	時間	内容
4月 11日 (土)	午後二時～午後三時	お勤め「らいはいのうた」その後、法話(40分程)
6月 14日 (日)	午後二時～午後三時	
8月 29日 (土)	午後二時～午後三時	
10月 18日 (日)	午後二時～午後三時	
12月 19日 (土)	午後二時～午後三時	

ご講師

藤澤信照師
(滋賀県・本願寺派布教使)

老若男女、どなたでもご参加ください。

普段の法要とは違い、時間も短めの法座ですので、いつもより気軽にご参加いただけます。今は特にお釈迦様の教えの基本について、お話しくださり、学ばせて頂いています。

時間の短い会ですが、お呼びしている先生は、浄土真宗の中でも御高名な先生方ですので、中身の濃いお話を聞いて頂けてもらいましょう。

持ち物

お念珠、
門徒式章(お持ちの方)
マスクは各自のご判断で。



▽ 住職の一言(小言)コーナー
だんだんと暖かくなってきたような気がします。風の香りから春が近くまで来ている、そんな気がする日が増えてきました。
こうして、当然のように冬が終わり、穏やかな春を迎え、子は育ち、親は年老いて。安穩とした平和の中で時が流れていく。これほどの宝物はほかにあるでしょうか。この宝物を80年保ち守ってきてくださったことに感謝しつつ、私たちが受けたその恩恵を、後代に遺し伝えていかなければいけないのではないのでしょうか。

親鸞聖人が関東におられたころ、修験道の行者が一人、念仏による仏法の弘まりに怨みを抱き、敵対心を燃やしていた。その行者は弓矢や刀杖を持ち、危害を加えようと勇んで親鸞聖人の住居を訪ねた。すると、親鸞聖人は何のためらうこともなく、もちろん武器も持たず出てこられた。そのお姿を拝見すると、あの危害を加えようとした心が忽ちに消えて、それどころか後悔の涙がとめどなく流れた。このような伝承がのこっています。振りかざす武器、振り上げる拳、攻撃する意思を持たないことこそ、何より優れた「説得力」だと思ふのです。



浄土真宗本願寺派
西覚寺

安城市朝日町12・8

☎ 0566・76・3594

http://saikakuji.sakura.ne.jp/wp/